

別紙：担当編集者が語る、企画、編集の舞台裏

《編集担当者のプロフィール》

松岡 濤（まつおか・みお）

1982年、岩手県生まれ。2007年、お茶の水女子大学大学院を修了（専門は日本近世文学）。同年、大修館書店に入社。『明鏡国語辞典 第二版』などの編集に携わる。『すてきな漢字に出あえる 赤ちゃんの名づけ事典』編集担当。

——企画までの経緯

企画を立てたのは、2009年。ちょうど『明鏡国語辞典 第二版』の改訂作業をしていたころです。2010年の常用漢字表の改定で名づけに使える漢字が変わるということで、名づけの漢字辞典を作ろうと思ったのがはじまりでした。

——類書との差別化と本書のコンセプト

私は、自分が名づけをするなら漢字の意味を重視したいと思っていました。また、ちょうど周囲で出産の機会が増えてきて、友人や先輩と子どもの名づけについて話すことも何度かあり、自分と同じように漢字や意味を大切にしたいと思っている人が、同世代にもかなり多いと感じていました。しかし、そういう観点でそれまでの名づけ事典を見ると、まだまだそのニーズに応えたものはないように思いました。それまでの名づけ事典は、画数や音にページを割いているものが多く、漢字を丁寧に扱ったものはほとんどありませんでした。特に、名づけの漢字が3,000字弱あるのに、どの事典も100~1,000字程度の字しか取り上げていないということには驚き、全漢字を収録した事典をぜひつくりたい、と思いました。

——姓名判断より漢字と意味を重視

企画を検討する過程で、名づけをした先輩や友人から「名づけの際にはまず使える漢字をすべて見ておきたかった」「使いたい字に悪い意味がないかどうか、辞典類で徹底的に調べた」といった経験談を聞きました。名づけにおいて漢字にこだわりたい、名前に意味や願いを込めたいという人は、どんどん増えてきていると思います。この事典では、本当に気に入った字を使ってほしいという思いで、あえて姓名判断の要素は入れず、漢字の意味などの解説を増やすようにしました。

——漢和辞典をもとに、名づけに特化した事典を目指した

名づけ事典を使わなかったという人の話を聞くと、漢和辞典を参考にしていることが多いということもわかりました。しかし、漢和辞典には名前に使えない字も多く収録されており、名づけの際には、まず使える字かどうかを自分で確認する必要があります。それに、情報量が多い分、必要な情報を探すのも大変です。名前に使える漢字だけを一覧できて、意味や読みや画数もきちんとわかる事典があったら便利なのではないかと思い、そこから全体の構成を考えていきました。

——全漢字を収録することで、すてきな漢字と出あえる可能性が広がる

名づけの漢字 2,998 字すべてを載せれば、名前にあまりふさわしくないような字も含むこととなりますが、それでも全漢字を収録することにはこだわりたいと思っていました。漢字の意味をきちんと書いていますので、それぞれの字が名前にふさわしいかどうかはわかります。それに、一見ふさわしくないと思うような字でも、実はそうではないことがあるんです。たとえば、「不」という字は、「～でない、～しない」という意味ですが、「不二 (= 二つとないこと)」「不世出 (= めったに世に現れないほどすぐれていること)」など、いい意味のことばになることがあり、「不二雄」「不二子」のように名前にも使うことができます。全漢字を収録することによって、赤ちゃんにぴったりの、すてきな漢字に出あえる可能性は圧倒的に広がるのです。